ポーラ・オルビスHD

第1四半期、減収減益

新型コロナウイルスの影響でポーラが大幅な減収に

ポーラ・オルビスホールディングスの2020年12月期第1四半期連結業績(日本基準)は、売上高が前年同期比17・4%減の433億1600万円、営業利益が70・4%減の20億6000万円、経常損失が1億5400万円(前年同期は65億2500万円の利益)、四半期純損失が12億4600万円(同41億5700万円の利益)となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、ポーラが大幅な減収(△69億6400万円)となった。Jurlique、THREEも百貨店来店者数の減少により苦戦した。売上原価率はポーラの売上構成比、高価格帯の売上構成比が低下したこと

で16・4%(前期同期比15・3%)となつている。販管費は、販売関連費をコントロールし、前年並みに抑えたものの、人件費、管理費等が増加した。その結果、営業利益率は4・6%(前年同期比12・9%)に落ち込んだ。

ポーラのインバウンド比率が半減、年間売上は50億円に

事業セグメント別では、ビューティケアが売上高で17・8%減の420億8200万円、営業利益で73・6%減の20億6000万円、不動産が売上高で3・2%減の6億3600万円、営業利益で4・9%減の2億8900万円、その他が売上高で3・3%減の5億9700万円、営業利益で85・9%減の4000万円となった。

ビューティケア事業のブランド別実績は、ポーラが売上高で21・7%減の2550億5700万円、営業利益で71・5%減の15億9200万円、減の15億9200万円、オルビスが売上高で8・2%減の113億4000万円、営業利益で0・7%減の17億7000万円、

高で30・5%減の12億9700万円、営業損失で17億7000万円(前年同期は17億1900万円の損失)、H2O PLUS が売上高で19・7%減の2億8400万円、営業損失で1億7000万円(同2億2300万円の損失)、育成ブランドが売上高で10・1%減の4億3700万円、営業損失で3億1100万円(同1億1600万円の利益)となっている。ポーラは、海外が増収となったものの、国内が外出自粛傾向や百貨店の営業時間短縮により大きく減収した。ビューティケア(同社)という。

また、多くの店舗が臨時休業や時短営業となっている。なお、インバウンド比率は、訪日観光客の大幅な減少により約5%(前年同期約10%)と平減。インバウンドとバイヤー需要の1Q実績はともに前年比60%減となった。このため、年間のインバウンド売上見通しを50億円に引き下げた。

Jurliqueは、中国事業を直営化しブランド強化したものの、新型コロナウイルス拡大による店舗閉鎖の影響で減収となった。主な指標は、「売上構成比」が豪州21・4%、「売上伸長率」が豪州31・2%減、香港20・2%減、免税店82・7%減、中国23・6%増となっている。育成ブランドでは、A-CRO(売上高10%減の25億1000万円、営業損失5億4700万円)の主力ブランド「THREE」(売上高18・4%減の21億3100万円、営業損失6100万円)が新型コロナウイルスによる百貨店の来館者減少、タッチング化粧品、セルフ化粧品とも低調に推移した。医薬・食品事業は、売上高が5・5%減の55億9700万円、セグメント利益が1・9%増の6億8800万円となった。NBドリンクの低調により減収となったが、販管費の効率的な運用などにより増益を確保した。その他の事業は、アパレル・ボディファッション関連や航空関連の売上が堅調で、売上高が9・8%減の10億8000万円、セグメント利益が96・1%増の9200万円となった。

ノエビアホールディングスの2020年9月期第2四半期連結業績(日本基準)は、売上高が前年同期比5・7%減の277億8900万円、営業利益が16・4%減の50億6800万円、経常利益が16・8%減の51億3500万円、四半期純利益が15・0%減の23億9800万円となった。

ノエビアHD 20年9月期第2四半期は減収減益

ノエビアホールディングスの2020年9月期第2四半期連結業績(日本基準)は、売上高が前年同期比5・7%減の277億8900万円、営業利益が16・4%減の50億6800万円、経常利益が16・8%減の51億3500万円、四半期純利益が15・0%減の23億9800万円となった。

化粧品、セルフ化粧品とも低調に推移した。医薬・食品事業は、売上高が5・5%減の55億9700万円、セグメント利益が1・9%増の6億8800万円となった。NBドリンクの低調により減収となったが、販管費の効率的な運用などにより増益を確保した。その他の事業は、アパレル・ボディファッション関連や航空関連の売上が堅調で、売上高が9・8%減の10億8000万円、セグメント利益が96・1%増の9200万円となった。

化粧品事業における減収により、前回発表予想を下回ることを織り込み、業績予想を修正した。なお、今回の予想数値は、緊急事態宣言が5月末に解除され、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が6月まで続き、その後事業活動が徐々に正常化する仮定のもとに算出している。

売上高は598億円から540億円(前期比8・9%減)、営業利益は123億円から95億円(同20・8%減)、経常利益は125億円から97億円(同20・8%減)、当期純利益は85億円から66億円(同8・7%減)へそれぞれ下方修正した。